



南米大陸は広い。その東側の中央部のほぼ半分を占めているのが、南米 NO.1の大国ブラジルだ。ブラジルはコーヒーとサッカーで有名(?)だが、その政治・経済は?また、1970年の自由選挙でアジェンデ社会主義政権が登場したことで、その後1973年の9.11チリ・クーデターで有名なチリは、西南の縦に細長い、ベトナムと同じような形をした国だ。そんなチリの現在の政治・経済は?また、今年7月の大統領選挙でケイコ・フジモリ氏が3度目の大統領選挙に挑み、50.12%対49.87%、わずか4万4000票差でカスティジョ氏に敗れた国がペルー。ペルーはチリのすぐ北側にある大国だが、その政治・経済は?

そして、大陸の南東側に位置している、ブラジルに次ぐ南米 NO.2の国がアルゼンチン。アルゼンチンは、映画『エビータ』(96年)で描かれたペロン大統領とそのファースト・レディーだった女性エバ・ペロンで有名だ。ペロン氏の大統領就任は1946年だが、1955年9月の軍事クーデターによって、彼は大統領の職を追われてしまった。そんなアルゼンチンのその後の政治・経済は?そして、2001年末から2002年初めにかけて発生した「デフォルト(債務不履行)宣言」を含む、アルゼンチン危機とは?

2001年のアルゼンチン危機を背景として作られた本作の鑑賞を機に、そんな南米大陸のいくつかの大国の政治・経済について勉強してみるのも一興だ。その一助として、「学習プリント 南米(南アメリカ)の国一覧」を掲げておく。

✎ 学習 プリント

南米(南アメリカ)の国一覧



	国名	首都
1	ベネズエラ	カラカス
2	ガイアナ	ジョージタウン
3	スリナム	パラマリボ
4	ギアナ(フランス領)	カイエンヌ
5	ブラジル	ブラジリア
6	パラグアイ	アスンシオン
7	ウルグアイ	モンテビデオ
8	アルゼンチン	ブエノスアイレス
9	チリ	サンティアゴ
10	ペルー	リマ
11	エクアドル	キト
12	ボリビア	ラパス
13	コロンビア	ボゴタ

■□■ 2001年のアルゼンチン危機(デフォルト)とは? ■□■

1955年9月の軍事クーデターでペロン大統領が失脚した後のアルゼンチンの政治は

かなり複雑だが、政治の混乱が同時に経済の混乱を生むことになったのは当然。そのため、アルゼンチンでは何度も金融と経済の危機を招いたが、1999年に起きたブラジルの金融危機を契機として、2001年～02年にかけて“アルゼンチン危機”と呼ばれる通貨危機・債務危機（デフォルト＝債務不履行）を招いたが、その実態は？

ちなみに、2008年に発生した「リーマン・ショック」をテーマにした映画は多い。また、1997年に韓国を襲ったアジア通貨危機をテーマにした映画が『国家が破産する日』（18年）（『シネマ46』232頁）だった。同作は、①危機を回避しようとする韓国銀行の通貨政策チーム、②危機を利用して一儲けをもくろむ金融コンサルタント、③政府の言うことを何の疑いもなく信じる町工場の経営者、という三者三様の視点から見た面白い映画だったが、本作前半では、フェルミンをはじめとする“市井の人々”が何もわからないままアルゼンチン危機に巻き込まれ、一文無しになってしまうストーリーが描かれるので、それに注目！

### ■□■被害者は多数！しかるに利益の独占者はこの男1人？■□■

本作前半は、フェルミンを中心に多くの住民たちが知恵とカネを出し合って農業協同組合を作ろうとするストーリーが描かれる。その志やよし！しかし、弁護士に相談もせず、素人だけで巨額の金を動かしているとヤバいのでは？そんな心配どおり、集めた資金を銀行の口座に預けた途端に、国家規模のデフォルト（債務不履行）となり、銀行の預金の引き出しがすべて禁止されてしまったから、アレレ。

しかし、一方で多数の被害者が発生すれば、他方で利益の独占者が現れるもの。それが銀行の支店長と悪徳弁護士マンシー（アンドレス・パラ）の2人だ。顧客の恨みを買った支店長がその妻ともども殺されてしまうストーリーは日本では考えられないが、南米のアルゼンチンならそれも有り・・・？すると、マンシーは？

本作には、フェルミンを中心に、紹介できないほど多くの個性豊かで善意の住民たちが登場するが、逆に悪役はマンシー1人だけ。しかして、支店長亡き後、マンシーは涼しい顔をして生きていたうえ、新たに農場を買ったそうだから、我が世の春を謳歌しているらしい。しかも、フェルミンたち多くの被害者の耳には、マンシーはその農場に地下金庫を完成させたいとの情報が。もしそれが本当なら、被害者の力を結集して、その金庫の中に眠る巨額の現ナマを奪回しよう！それがフェルミンの息子ロドリゴ（チノ・ダリン）の提案だったが、さあフェルミンは？その他の多くの被害者たちは？

### ■□■防犯システムを如何に突破？団結すれば何だって！■□■

本作は、前半では単に金を拠出するだけの存在だった善意の住民たちが、後半からは「奪われた金をマンシーから奪回しよう」という明白な意思を持って結集し、さまざまな知恵を出し合い、それぞれの役割を分担し合いながら団結し、それを実行していくという“青春群像劇”ならぬ“おじさん・おばさん群像劇”になっていくので、それに注目！

そのスタートは地下金庫の頑丈さ（防犯システム）を探ることだが、そんなことがどう

してできるの？たちまち、そこで行き詰ったが、「三人寄れば文殊の知恵」とはよく言ったものだ。かねてからマンシーを見張るため、園芸店の店員を装ってマンシーの法律事務所顔を出していたロドリゴは、そこで働く美人の若い事務員フロレンシア（アイリン・サニノビッチ）に目をつけていたから、彼女の目を盗んで防犯装置の請求書を調べれば……。そんなアイデアが採用された後は、本作後半のダイナミックなストーリーが次々と展開していくことになる。

CIA や FBI のスパイたちが最先端の AI 装置を駆使して展開するハラハラドキドキの頭脳戦やアクション戦も面白いが、本作の時代は 2001 年だから、最新の防犯システムといってもたかが知れたもの？いやいや、そんなことはない。本作に見る防犯システムの複雑さと難攻不落ぶりは相当なものだ。したがって、本作後半は、さらにそれに打ち勝つ知恵を結集するフェルミン達のあつと驚く行動力が見ものになるが、手探りながらもそのお手並みは素晴らしい。凡人ばかりの集団だって、ここまで団結すればなんだって可能！そんなことを十分納得させてくれる仕上がりだ。アルゼンチンの田舎町に生きるおじさん・おばさんたちが、アルゼンチン危機を利用して利益を独占したマンシーから「金を取り戻したい！」という一念で奮闘する“群像劇”をしっかりと楽しみたい。

『オーシャンズ 11』シリーズはプロ集団だったから、そのお手並みが鮮やかなのは当然だが、素人集団が結集した本作にだって、それに勝るとも劣らない痛快な復讐劇になっているので、それに注目！

2021（令和3）年8月20日記